

世羅楓佳さん

(中溝地区在住)

熊野高校の3学年に在籍しています。芸術類型(芸術専門科目のある普通科)のアートディレクションコースを専攻し、芸術表現を用いて演出するディレクション術の力を活かして学校や地域を元気にするためのプロジェクトを企画実行するなど実践探究型の学習をしています。

1学年の時に筆の里工房にできる新しい施設についてのワークショップに参加しました。「心地よい空間や場所」、「新しい施設でやりたいこと、実現してみたいこと」についてディスカッションし、参加した生徒からとても多くの意見が出されたことを記憶しています。

私にとって心地よい空間とは、程よく静かで自然がある所です。そのような空間では子どもや大人もみんな笑顔になって、明るく過ごせる場所になると思うからです。これからできる施設は熊野町の新たな魅力を創る場所になると思うので、どのような場所になっていくのか本当に楽しみです。

みんなが笑顔で楽しめる施設にするためのアイデアですが、他にはないアート体験ができるイベントを開いてはどうでしょうか。例えば、特大のキャンバス(油絵用の画布)に色々なカラーの絵の具が入った水風船を投げつけて、熊野町全体で一つの作品を描き出すなど、「遊び」と「アート」の要素をかけ合わせてみんなが協働して制作するようなイベントは素敵だなと思います。

筆の里工房へは、「筆の里ありがとうのちょっと大きな絵手紙大賞」の作品展に行ったことがあります。これからできる施設には大勢の人と創作できるスペースがあると聞いたので、アートディレクションコースの企画でも活用できるのではないかと期待しています。屋外でのイベントとしては、工房周辺の自然やお店を巡るツアーを行うと楽しそうだなと思います。公園には子どもが走り回れて、桜などの植栽や水辺などの自然があ



ると心地よい空間になるのではないでしょうか。

人がそれぞれに思い描く「芸術」の概念は異なると思います。

しかし、他者に自分の気持ちを目に見える形として表現することができるのは芸術の力だと私は考えています。そのため、人と話すことが苦手、どうやって気持ちを伝えればよいか分からない、そうした人たちにも利用してもらい表現してほしいです。

文化芸術の大切さを伝えるためには、実際に体験してもらい楽しさを知ってもらうことが一番だと思っています。

この内容は、令和4年12月8日に開催した『(仮称) 筆の里創造の丘公苑「体験交流施設」ワークショップ』に参加いただいた方へのインタビュー内容を記録したものです。(一部要約をしました。)

日時 令和6年7月3日午後1時30分から

場所 広島県立熊野高等学校